

わたしの好きな よりい

No.152

今月号で皆さんにご紹介するのは、中小前田にお住まいの内田さん宅のクリスマスイルミネーションです。サンタやトナカイ、雪だるまなどが鮮やかに光り輝くお宅は、見るだけでワクワクしてきます。

数年前に仕事の付き合いでシカのイルミネーションを買ったのが飾り付けを始めたきっかけのこと。昨年は電気の配分がうまくいかず、ブレーカーが何度もおち、大変だったそうです。

内田さんは、「先日の夕方のことです。家族で買い物をして帰ってきたら見知らぬご夫婦が家の前にいました。『知人に聞き、散歩するコースを変えてこっちまで足をのばして来たんですよ。きれいですね。大変



<Xmas イルミネーション2008>

だったでしょう』とっていただき、家族みんなで感激しました」と話してくださいました。

クリスマスまでイルミネーションは飾られているそうです。

皆さんも散歩やドライブする時にちょっと足をのばして、やさしい光に包まれた幻想的な空間をご覧ください。



わが町の 達人

手品の達人

No.21



高田 守さん (栄町)

私と手品との出会いは、市街地公民館の講座からでした（何でも興味を持ち、途中で投げ出してしまうタイプなのに、人一倍関心を持つ…）。練習には遅れ、不器用な私でした。むしろ手より口で覚えるようでした。メニューは主にロープの手品、ハンカチの手品等でした。やがて時は流

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方を中心に、そのうちくや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

れ、いつの間にか各地区の福祉の役員さんから依頼を受けるようになりました。“笑いの手品師（志）”がアクションを起こすことになったのです。断ることを知らない、人前へ出て演じる怖さを知らない？ なぜ？って、人と触れ合うことが好きなのです。どこの会場へ行っても、まずは私の自己紹介で爆笑です。芸名は“電気亭夢之助”。英語で言うと、“エレクトリックドリーマー”で始まり…。これで会場は笑いの渦です。

肝心の手品は誰にでもできる易しい紐を使うもの、ハンカチから花を出すものなどです。最初に私が一通り行い、次に役員さんたちに順次やっていただきます。初めは嫌がっていた方も次第にやってみたくなるように進めるのが業です（口は業わいの素）。こうして順番にやっていくと会場全体が和やかに楽しく笑いの渦です。こうなればしめたものです。各地を歩いてみますと今一番足りないのが“ユーモア（笑）”と“ゆとり”

のようです。また、役員さんの大変さが良く分かります。

今後も手品を通してご依頼先を訪ね、たくさんの方と触れ合い、笑いの手品志？として出前を続けて行きたいと思っています。

まず、健康は笑いから!! そして、人とのコミュニケーションは手品より始まる。皆さんも生活の中に“笑い”を持ちましょう。

